

をおかけし、また、ご協力を賜りました。

ところが、昭和五十七年九月の水害を境にこの方十年の長きにわたり溢流浸水は途絶え、無事農作物の収穫を授かりましたことは、この地を耕作する農家の非常に歓びとするところで、ここに天神地祇に深く感謝奉ります。

わけでも、遊水地内に住居を構え生活と酪農を営む流作地区の私共には誠に有難き幸せと存じ、無上の歓びに堪えません。この記憶に新しい歓びと心から感謝の念を込めまして本日第三回の祭祀を勤めることに相成りました。しかし、水

七 畜魂碑建立と鎮魂祭（昭和六十一年）

食物に困難した入植当時は、専ら米や麦の生産に主力を注いできた中で、開墾地の地力増進のため家畜の導入が欠かせないことと、もともと耕種一本の経営では将来專業農家として自立できないと考えていたので、昭和二十四年頃から豚と乳牛の導入計画と飼育に乗り出した。乳牛の生産が伸びてきた四十五年からスモールの哺育から肥育の一貫経営に取り組みなど畜産農家の育成にも積極的に施策を講じてきた。

畜産農家の多頭飼育が進み、肉豚、肉牛、廃用乳牛などの販売数は昭和五十八年には五千頭を越え、平成六年には六千五百頭近い家畜を出荷して、人間の食料に供されたのである。

害の不安は全くないと安心はできないので、築堤の請願を建設省ならびに関係各位にお願いしていますが、いまだその道は残念ながら開くにいたりません。

この上は神の御助けに頼る他に私どもには心の休まる手立ではありません。一年でも長い安穩な生活ができますよう神々の御加護を伏してお願い、ひたすら御祈願申し上げます。畏くも祭文といたします。

平成五年七月十一日

大八洲開拓農業協同組合長 石田 時雄

家畜の屠殺はいかに生業として古来から人間の特権のよう

に許されてきたとはいえ、家畜の生命の代償により畜産農家も組合も生計と経営を保持していることに思いを寄せると、組合員には家畜への憐憫の情と感謝の気持を忘れることはできない。

しかし、今日までその対応がなされず、長い間心残りであったが、入植四十周年を機会に畜魂碑建立の強い要望により昭和六十一年十一月に素住台公民館敷地内に建立、十二日に除幕・入魂式を挙げて、開拓四十年にわたる家畜の靈に感謝の意を表した。



昭和61年11月12日 畜魂碑除幕式
—無量寺住職—日下大陸師を囲んで



同上 石田組合長を囲んで

八 入植四十周年記念祭(昭和六十一年)

佐藤初代組合長が執行した三十周年記念祭も昨今のようで、十年の歳月は束の間に過ぎた思いで四十周年を迎えることになった。私どもは、佐藤組合長の姿の見えない開拓祭はなんとなく心淋しい気持ちで最初開催を躊躇したのであったが、しかし、故人の遺産ともいふべき大八洲開拓を守るために組合員の拓魂を鼓舞し、開拓五十年に向けて新しい決意を披歴する意のもとに昭和六十一年十一月十五日を期し素任台公民館において挙行することに決したのである。

このような意図により今回は内輪にということで、守谷町

農業者は田畑を耕作するため土中の虫をはじめ作物の病虫害防除と称して、一年の間には知らず知らずのうちに生息する虫類の無数の命を奪っている。一寸の虫にも五分の魂の言葉もあり、生き物に命はいかなるものも変わりがないことを改めて認識し、毎年犠牲にした家畜をはじめ虫類にいたる一切の霊を鎮めるため、大八洲畜産振興部会主催により毎年二月の部会の通常総会当日に畜魂祭を関係者一同感謝の念を持って開催している。

および水海道市の行政および関係機関の各位と地元の関係者の方、それに組合員の縁故関係を合わせ約二百名の皆様方をご案内して挙行した。

例のように故佐藤組合長をはじめ開拓物故者の追悼法要を勤めた後式典に移り、佐藤組合長亡き後二代目組合長の高橋辰左エ門氏も六カ年余の任期を終え退任されたので、入植以来永年の大八洲開拓および組合に貢献されたご苦労に対し感謝状および記念品を贈り、組合員一同感謝の意を表した。

幸い好天により、公民館広場でいつものとおり野宴で焼き